

# まちづくりニュース



発行：平成24年3月  
杉並区都市整備部都市計画課 鉄道立体担当



P.2 ▶ 桜上水駅周辺地区のまちづくり構想の概要

P.4 ▶ 京王線沿線の事業の流れ  
(連続立体交差事業・まちづくり)

P.3 ▶ 上北沢駅周辺地区のまちづくり構想の概要

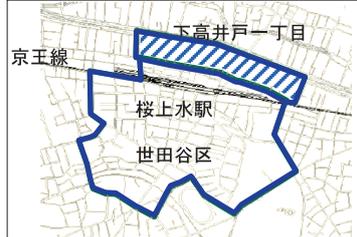
▶ 沿線探訪



## 桜上水駅周辺地区 上北沢駅周辺地区の「まちづくり構想」が提案されました

### 桜上水駅周辺地区 街づくり協議会

平成23年9月22日、桜上水駅周辺地区街づくり協議会（会長：鈴木秀典氏）から、桜上水駅周辺地区の「まちづくり構想」が提案されました。



#### 協議会区域

(斜線の区域：杉並区)



H23.9.22

左から、鈴木会長、朝倉運営委員、櫻田事務局長、蒲生運営委員、田中区長



H24.1.17

左から、井上事務局長、新井会長、鈴木副会長、志村運営委員、菊池副区長

### 上北沢駅周辺地区 まちづくり協議会

平成24年1月17日、上北沢駅周辺地区まちづくり協議会（会長：新井貞次氏）から、上北沢駅周辺地区の「まちづくり構想」が提案されました。



#### 協議会区域

(斜線の区域：杉並区)

区では、両地区のまちづくり構想の提案を受け、今後、地区のまちづくりに関する基礎的な調査等を行います。構想の内容を十分に尊重し、区のまちづくりの施策に反映するよう努め、地区のまちづくりを進めます。

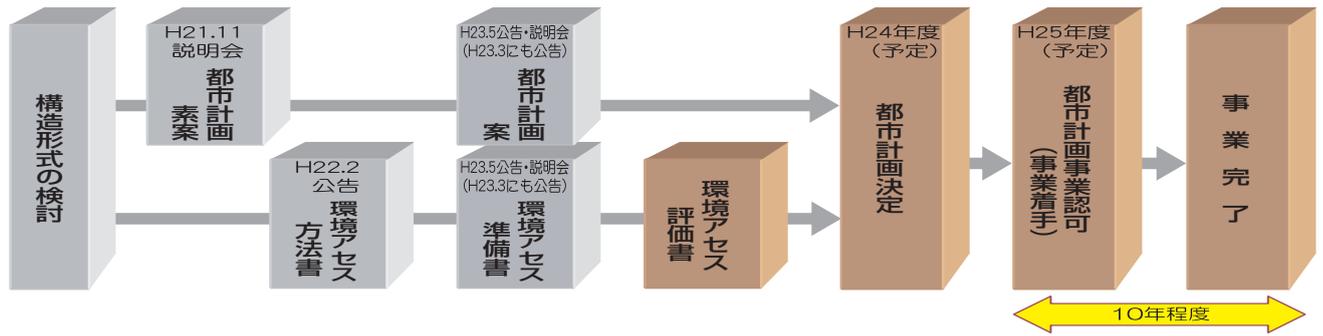
なお、両地区のまちづくり構想は、「地区街づくり計画原案」として、同内容で世田谷区にも提案されました。



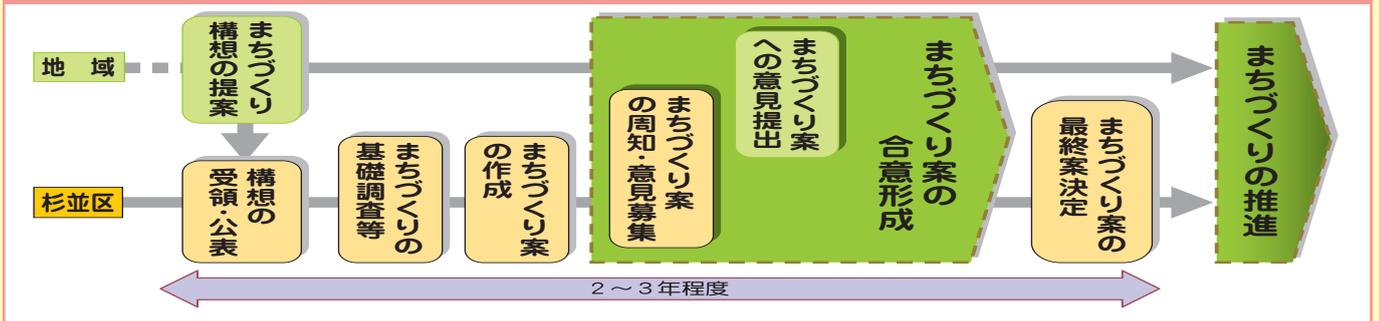


# 京王線沿線の事業の流れ

## 連続立体交差事業の概ねの流れ



## まちづくりの概ねの流れ (構想提案後)



# 沿線探訪(小菊橋と吉田園)

玉川上水第三公園内(下高井戸二丁目)にある「小菊橋」は、現在は橋としての役割を終えています。かつては玉川上水に実際に架かっていた橋です。小菊橋は、下高井戸駅から「吉田園(大正初期～昭和初期)」という遊園地に渡るため、吉田園の創業者である吉田甚五郎氏が私財を投じて建てた橋でした。

当初、吉田氏は、ここが玉川上水からの綺麗な水が流れていて、杉並木が北斜面にある寒冷地であったため、製氷場を営んでいましたが、1917年(大正6年)、製氷場の池をアイススケート場に変えました。

吉田園は、丘、谷、池、滝ありの景勝地で、春は玉川上水に桜が映え、夏には蛍が飛び、また高台で神田川北岸を見渡せたようです。テニスコートや木製滑り台、運動場、茶亭、つつじや花菖蒲の庭園も備えた遊園地でした。



アイススケート場

アイススケート場では、三つ揃いのスーツや着物姿でスケートを楽しむ姿も記録され、東京名所の絵葉書にもなっていたようです。昭和初期になると夏季にはスケート場をプールとし、後の京王閣や多摩川園のモデルにもなっています。

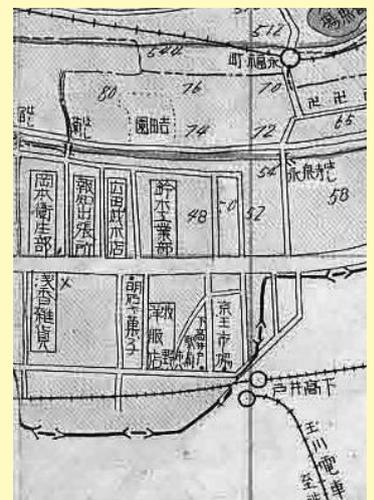
小菊橋のアーチ型の美しい石造りの橋は、付近の住民から再建を望む声に、元通りではありませんが、1995年(平成7年)に赤煉瓦風のレトロな小菊橋の復元が叶いました。小菊橋の名のいわれは、この一帯に小菊が咲いていたため、或いは吉田甚五郎氏の愛しい人の名ではないかとも言われています。

当時に想いを馳せながら、細長い公園(\*)に玉川上水の流れ跡を重ねて散歩を楽しんではいかがでしょうか。

\*玉川上水公園、玉川上水永泉寺緑地公園、玉川上水第三公園、玉川上水第二公園が東西に並んでおり、全長で2,000mにもおよびます。

【参考文献】杉並の川と橋 杉並区郷土博物館 平成21年3月発行

杉並区公式サイト すぎなみ学倶楽部・上妻絢子・荒倉朋子 すぎなみの歴史を学ぶ「謎の吉田園」



東京交通社発行「大日本職業別明細図」(抜粋) 昭和8年当時



復元された小菊橋

杉並区 都市整備部 都市計画課 鉄道立体担当

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111(内線)3504 Fax 03-5307-0689